

氏名：福原 涼太

派遣元：静岡県

派遣期間：令和3年4月～令和4年3月

所属：総括担当

私は政策企画・法制担当として、主に、各種政策・予算・法令関係の照会に対する局内の割振の決定及び様々な調整並びにマスコミや地方公共団体からの災害対策基本法に係る問い合わせへの対応などに従事しました。

事業を持っておらず、各担当の業務が円滑に進むように交通整理を担う裏方的な仕事でしたが、そのおかげで局内の各担当や他省庁がそれぞれどのような施策を実施しているかを知ることができ、災害対策基本法についても学べたことで、防災に関して幅広い知識を得ることができたと感じています。

今後は、このOJT研修での経験を活かして、様々な災害リスクを抱える派遣元の静岡県において、防災行政に貢献できるよう努めていきたいと思えます。

氏名：四垂 大将

派遣元：NEXCO 東日本

派遣期間：令和3年4月～令和4年3月

所属：総括担当

私は、広報・広聴担当として、防災担当大臣の記者会見のとりまとめ、記者公表手続き、内閣府防災HPやSNSの管理運営などの業務に携わりました。

会見や記者公表の窓口となることで、国の防災施策について幅広く知識を得ることができましたし、令和3年7月、8月の大雨や、千葉県北西部や福島県沖での地震など発災があったときにも記者公表・会見対応等の業務にあたり、国の職員として災害対応を体感できたことは非常に有意義な経験でした。

派遣元に戻っても、内閣府防災で得た知識・経験をいかし、発災時においても重要な役割を果たす交通インフラである高速道路の維持・管理のために尽力してまいりたいと思えます。

氏名：田中 兎真

派遣元：宮崎県

派遣期間：令和3年4月～令和4年3月

所属：総括担当

私は総括担当として、国会対応に携わる業務をさせていただき、親元からの他省庁研修員や内閣府防災の研修員の中でも特に貴重な経験をさせていただいたと感じています。

日々ハードでしたが、ごく稀にある平和な日がとても幸せに感じる密度の濃い1年で、地方では絶対に経験することのできない経験をさせていただきました。

また、業務の処理スピードも親元とは異なり、研修当初は、目の前の業務を整理するだけで手一杯でしたが研修を終える今となっては、スピードが基準となり、自ら業務を処理できていることに驚いています。

最後にこの経験と感覚を持ち帰り、県の防災行政及び国と地方の連携強化に貢献できるよう精進してまいります。一年間大変お世話になりました。

氏名：高橋 篤史

派遣元：愛知県 名古屋市消防局

派遣期間：令和3年4月～令和4年3月

所属：災害緊急事態対応担当

災害緊急事態対応担当として、災害発生時の政府本部の設置や会議の運営などに携わる中で、情報処理や国の対応のスピードに付いていくのが精一杯でしたが、大変貴重な体験ができたと感じています。

これまででは、消防人として救助活動をメインに災害対応をしてきましたが、救助活動は災害対応の一面に過ぎず、警報避難や復旧復興など、多くの災害対応があることを学び、「防災」について多面的に捉えることができるようになりました。

今後は、内閣府での経験を活かし、災害時の救助活動のみならず、平時から自主防災組織と連携し、防災に関する普及啓発をしていき、ひとりでも多くの市民の方の命を救えるように尽力してまいります。

氏 名：雨宮 悠太
派遣元：山梨県
派遣期間：令和2年4月～令和4年3月
所 属：災害緊急事態対応担当

災害緊急事態対応担当の一員として、災害時の初動対応を経験しました。発災後、とてつもないスピード感で意思決定がされ、対応方針が決まっていく様子を目の当たりにできたのはとても貴重な経験でした。そのように対応できるのも平時から準備・検討の賜物であることも身をもって体感しました。

また、平時においては、災害時における船舶を活用した医療提供の検討等の業務も行いました。各省や関係団体等関係者間の調整は大変でしたが、さまざまな人と議論を交わしたことで、その多様な考え方を吸収できました。

2年間、ここでは書ききれないほどいろいろなことを経験しました。派遣元に帰ってからこの経験や人とのつながりを活かしていければと思います。

氏 名：上野 聖也
派遣元：大分県 佐伯市
派遣期間：令和3年4月～令和4年3月
所 属：地方・訓練担当

地方・訓練担当で、国や地方の職員を対象とした「防災スペシャリスト養成」研修の運営等に携わりました。業務を通じて、防災行政全体に対する理解を深めるとともに、スケールが大きくスピード感のある国の仕事の仕方を学ぶことができました。

その他にも、災害現地への派遣や各種研修の受講など、貴重な経験をさせていただき、実りの多い1年となりました。OJT 研修を通じて得た学びを、今後の市の防災行政に役立ててまいります。

氏 名：小寺 諒
派遣元：神奈川県 相模原市
派遣期間：令和3年4月～令和4年3月
所 属：地方・訓練担当

私は地方・訓練担当で9月1日防災の日「総合防災訓練」や大規模災害発生時における政府災害対策本部である「緊急災害対策本部事務局」運営訓練などの企画・運営に携わりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から訓練をオンラインで実施する初めての試みを行い、政府機関の災害対応能力の向上に資することができました。

令和3年7月1日からの大雨においては、被災地に内閣府調査チームとして派遣され、被災自治体のニーズを収集し、国の機関のカウンターパートに繋げるなど、国の立場の災害対応を行いました。

国での貴重な経験を活かし、本市の防災減災に資する取り組みを推進するとともに発災時には迅速な災害対応を実施して参ります。

氏 名：飯田 晋也
派遣元：広島県
派遣期間：令和3年4月～令和4年3月
所 属：調査・企画担当

調査・企画担当において風水害からの避難に関する業務として、「避難情報に関するガイドライン」や「令和3年7月からの一連の豪雨災害を踏まえた避難に関する検討会」等を担当しております。

「避難情報に関するガイドライン」や令和3年5月の災対法改正とともに運用が始まった、新たな避難情報については、マスコミで報道されることも多く、ここでの仕事の影響力を実感したところです。

また、検討会業務では、各有識者の経歴・研究に基づく複数の視点からの多様な意見や考え方を学ぶことができました。加えて、内閣府という組織も自治体や民間企業から出向の職員等、様々な経歴・背景を持った人から構成されており、その意味でも、多様な観点から仕事に取り組むことができたと感じます。

出向元に帰った後も、ここで得た経験や視点等を活かし、業務に取り組んでまいりたいと思います。

氏名：西ノ園 勇氣
派遣元：鹿児島県
派遣期間：令和3年4月～令和4年3月
所属：調査・企画担当

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策に関するたくさんの打合せやワーキンググループを経ていろいろな職種や地域の方々の意見・考えに触れることができ、今後の仕事に対する取り組み方を考えるうえで非常に重要な一年となった。

業務の内容自体は難しいものが多いが、伝える際にはいかに相手にとって簡単で、わかりやすいものになるかを念頭に置くことが大事で、今までもそうであったが内閣府で仕事してさらに意識するようになりました。

派遣元に戻ってからは、内閣府での知見を生かし日々の業務に励みたいと思います。

氏名：平山 亜友美
派遣元：大分県
派遣期間：令和3年4月～令和4年3月
所属：調査・企画担当

私は調査・企画担当で、地震対策の検討に携わりました。主な業務は検討会の運営、会議資料作成、有識者・関係省庁との調整でした。

近年、地震が多く発生し、社会的な関心が高まっている中で、地震対策という多くの方の命にかかわる業務に携わることになり、常に緊張感を持って業務に取り組んでまいりました。

業務を通じ、国、県、市町村、関係機関等の立場の異なる組織がどのように考え行動し、また連携していくことができるのかという視点を持つことの重要性やスピード感を持った業務への取り組み方等を学びました。

派遣元では、内閣府防災での経験を活かし、防災行政の推進に取り組んでまいります。

氏名：吉原 大貴
派遣元：和歌山県
派遣期間：令和3年4月～令和4年3月
所属：調査・企画担当

国がどのような手順を踏まえてガイドライン等を作成しているのかを身を持って知ることができました。

また、国として方針を示すことは可能ですが、各地域の特性を踏まえたものを作り出すことは困難であり、国で示された対策案をどのように地域の実情に合わせて反映させていくかについては自治体が考える必要があるということに改めて認識しました。

この他にも、検討会を運営する中で、各地域での事例を調べ、対応案として取りまとめを行いました。国が自治体の取組から学ぶこともたくさんあり、国と自治体それぞれが防災に継続して対策を進めることで大きな相乗効果を生み出すということも学ぶことができました。

今後県でも学んだことを活かしたいと思います。

氏名：君塚 和秀
派遣元：KDDI（株）
派遣期間：令和2年4月～令和4年3月
所属：防災計画担当

防災計画担当として、首都直下地震緊急対策推進基本計画の中間フォローアップ、政府業務継続計画（首都直下地震対策）における中央省庁業務継続ガイドライン第2版の改定を行いました。

また、令和2年7月豪雨では、熊本県庁に派遣され、被災地を回り、復旧に向けた各種情報収集等を行いました。

様々な業務を経験させていただき、省庁、自治体、指定公共機関等の連携が非常に重要であることを改めて認識いたしました。

出向元に戻ってからもしっかりと連携に努めていきたいと考えております。

2年間貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

氏名：宮澤 敏記

派遣元：(株)NTTドコモ

派遣期間：令和3年4月～令和4年3月

所属：防災計画担当

防災計画担当において、中央省庁業務継続ガイドライン改訂、燃料補給訓練の企画・運営、サテライトオフィスでの災害時業務継続の検証、各省庁庁舎の通信環境評価等を行いました。

また、防災×テクノロジープラットフォームの立上げにも参画し、企業と自治体のマッチングサイト構築、セミナー開催にも携わらせていただきました。

更に熱海土砂災害では、静岡県庁ヘリエゾンとなり、各種情報収集等を行いました。

多岐にわたる業務を経験させていただき、省庁、自治体、指定公共機関等の連携が非常に重要であることを改めて認識いたしました。出向元に戻ってからも橋渡しに努めていきたいと考えております。

1年間貴重な機会をいただき大変ありがとうございました。

氏名：久保 直也

派遣元：(一社)日本建設業連合会

派遣期間：令和2年4月～令和4年3月

所属：防災計画担当

内閣府防災では、防災計画担当として、主に防災基本計画の修正や「防災×テクノロジー官民連携プラットフォーム（防テクPF）」の構築に携わりました。

防災基本計画の修正では、その時々での防災施策の進展を通じた反映を行うことができ、幅広い防災施策に触れることができました。

また、防テクPFについては、一から構築に携わることができ、防災に係る公的機関のニーズと事業者の技術のつなぎあわせに貢献することができました。

日々の業務を通じて、国・自治体・民間企業等多様な方々の考え方や意見を吸収できたことが一番の財産になったと思っております。

本研修を通じて得た知識、経験、人脈等を派遣元企業にしっかりと還元し、社業の発展、建設業界への貢献、社会への貢献をしていきたいと思っております。

氏名：長谷川 雅人

派遣元：イオン(株)

派遣期間：令和3年4月～令和4年3月

所属：普及啓発・連携担当

私は、普及啓発・連携担当の一員として、主に防災推進国民大会、防災ポスターコンクール等の一般から専門家まで多くの方々が参加するイベントの開催を担当しました。

また、TEAM 防災ジャパンや防災教育チャレンジプランや広報誌ぼうさいの運営業務を通じ、防災の専門家や有識者とのつながりを持つことができました。

国としての公の仕事は非常によい経験となり、自信を得ることができました。

また、イベント等を通じて、国が取り組む防災の施策や様々な団体の活動等について知ることができました。

この1年間で学んだ経験は今後の人生の糧としたいです。

氏名：安松 修平

派遣元：(一社)日本建設業連合会

派遣期間：令和2年4月～令和4年3月

所属：普及啓発・連携担当

国際防災協力の業務に従事する中で、日本が世界の防災をリードする意義や背景について知ることができました。コロナ禍の影響により、対面式での国際会議や海外出張はできませんでしたが、オンラインを活用して様々な国の防災関係者と交流を行いました。

防災関連のパンフレットや広報誌を編集する業務を通しては、内閣府（防災担当）の各室が担っている業務内容を勉強できたことに加え、他省庁や自治体などの取組についても知ることができ、日本中で積極的に防災に取り組む方々がいるのだと改めて感じました。

全体を通して、非常に広い視野をもって業務に取り組めたと思っております。また、ここで得られた貴重な人脈を、今後も大切にしたいと思っております。

氏名：吉江 英伸

派遣元：神奈川県 大和市

派遣期間：令和3年4月～令和4年3月

所属：防災デジタル・物資支援担当

私は、神奈川県大和市より派遣され、主に災害時の物資支援を担当していました。

派遣されるまでは防災分野で業務を行っていなかったこともあり、プッシュ型支援の仕組みを始め、国が行う物資支援について、ここで初めて業務を通じて勉強させていただきました。

特に国による物資支援は、それぞれ担当省庁が決まっており、その調整を担う内閣府の動きはとても重要であるということを学びました。

また、7月に大雨により被災した熱海市にて、総理視察時のロジ周りの準備や内閣府の現地リエゾンとしての業務を行いました。現地では、総理大臣を先導する役を任せられるなど、とても貴重な経験を積ませていただきました。

OJT 研修生として1年間の研修を通じて得られた知識や経験等は、後にも先にも得難い大変貴重なものとなりました。ありがとうございました。

氏名：園部 剛史

派遣元：(株)セブンイレブン・ジャパン

派遣期間：令和3年4月～令和4年3月

所属：防災デジタル・物資支援担当

私は防災デジタル・物資支援担当の一員として主に物資支援や防災IoT業務に携わってきました。

物資支援業務では災害時の物資支援のスキームや物資調達・輸送調整等支援システムの運用等を、防災IoT業務では災害時のIoT技術を使った情報の収集・共有など今まで経験したことがないようなことを幅広く学ばせていただきました。

また令和3年7月には静岡県熱海市に派遣され現地と内閣府をつなぐ役割も経験させていただきました。内閣府では法令を確認しつつ行う業務が多く、非常に勉強になりました。

派遣元に戻ってからも法令や社則を意識しながらの業務をしていきたいと思えます。

様々な省庁、自治体、民間企業の方々との交流や意見交換ができたことは非常に勉強になりました。今後もこのつながりを大切にお互い協力していく関係を築いていきたいと思えます。

氏名：田中 由宇

派遣元：広島県 広島市

派遣期間：令和3年4月～令和4年3月

所属：避難生活担当

避難生活担当において、被災者台帳作成のための自治体への助言や実態調査、被災者台帳に係るシステムの構築等に取り組みました。

発災後に、抜け漏れや重複のない迅速な被災者支援を行うには、被災者台帳の作成により、一人ひとりの状況を把握し、共有する必要があること、また、発災時円滑に台帳を作成するためには平時からの準備が重要であることを実感しました。

自治体とは業務の進め方や環境が大きく異なり、戸惑うこともありましたが、働く姿勢や視座の高さなど、多くを学ぶことができました。一方で、自治体職員の日線を活かせる場面も多く、有意義な経験をさせていただきました。この一年間の経験を活かし、派遣元での防災業務等に尽力してまいりたいと思えます。

氏名：近藤 真吾

派遣元：岡山県 岡山市

派遣期間：平成31年4月～令和4年3月

所属：避難生活担当

私は、避難生活担当（旧：被災者行政担当）にて、主に災害時の要配慮者関係施策に関する業務に携わらせていただきました。

2年3カ月の在任中、日頃の資料作成等にとどまらず、答弁作成や幹部・議員等へのレク、有識者会議の事務局運営、災害対策基本法の改正、モデル事業の運営など、数多くの大変貴重な経験ができました。

また、令和元年東日本台風等の大規模災害の発生時には、避難所や災害救助法等を中心に、幅広く災害対応業務に携わらせていただき、横断的な災害対応のノウハウを学ぶことができました。

岡山市に帰任後は、防災部門である危機管理室に配属となり、個別避難計画を含む地域防災全般に関わる業務を担当する予定となっております。

研修を通じて得ることができた多様な方々とのかけがえのないつながりを大切に、今後は国の立場から、一自治体の担当者として、頑張っていきたいと考えております。

氏 名：松崎 雅樹
派遣元：東京都 江戸川区
派遣期間：令和3年4月～令和4年3月
所 属：避難生活担当

私は避難生活担当として、名簿ライン（特に個別避難計画に関係する業務）を担当しました。令和3年5月に改定されました「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」や「個別避難計画作成モデル事業」の運営等を行いました。

モデル事業では、全国の自治体と交流をもつことができ、優良事例等の情報を共有することができました。（コロナ禍の状況によりオンライン対応）

また、国会の対応や災害時には避難所の調査も経験することができました。体力的にも厳しい日もありましたが、とても良い経験となりました。つらい状況でも研修生等の仲間がいたおかげで乗り越えられたこともありました。

内閣府での研修を通じて得た知識や人脈を大切に、今後の業務に活かしていきたいと思います。

氏 名：村上 栄治
派遣元：熊本県 熊本市
派遣期間：令和3年4月～令和4年3月
所 属：避難生活担当

国での業務は管轄する地域が自治体の比にならず、国内のどこかで災害が起きた際に対応しなければならなくて、例えば令和3年8月の大雨による災害が全国に広がっていったときは、非常に大変でした。ただ、その中で、国の職員の方々が昼夜を問わず、自治体等のために仕事されている姿を見て、自治体として非常に心強く思ったところです。また、現場は自治体が所掌しており、国に対して自治体が報告・相談しないと国は現場の状況を中々把握できないので、困りごとはなんなのかありのままに伝えることも必要だと理解できました。

今後は、特に都道府県との連携や、庁内（特に保健福祉部局）との連携を密にしながら、防災行政の推進に励んでいきたいと思います。

1年間、ありがとうございました。

氏 名：戸倉 毅
派遣元：福島県
派遣期間：令和3年4月～令和4年3月
所 属：被災者生活再建担当

私は、被災者生活再建担当で災害救助法を担当し、災害救助法の適用や適用自治体への説明会、精算監査、救助基準の告示改正、全国知事会との意見交換会等様々な業務を経験させていただきました。

特に、災害救助法の適用は、一刻を争う業務のため、都道府県担当者と密に連携し、情報収集を行い助言等させていただきましたが、早急に情報を集めることがいかに大切か実感しました。

県職員の私にとって、災害救助法に係る一連の流れを経験・理解できたこと。また、全国規模の業務に携わることができた内閣府防災での1年間は、とても大きな財産になりました。この経験を福島県の防災業務や復興に役立てていきたいと思います。

氏 名：佐藤 稔希
派遣元：新潟県 三条市
派遣期間：平成31年4月～令和4年3月
所 属：被災者生活再建担当

私は、被災者生活再建担当として、平時においては、住家の被害認定業務に関する指針等の改定や、都道府県からの依頼に応じて、地方公共団体向け説明会の講師等を主な業務として行いました。

また、発災時には、PUSH型支援として、被災市町村向け説明会を現地で実施するとともに、必要に応じて現地に滞在し、技術的な助言を行いました。

住家の被害認定業務は、災害対策基本法上、市町村長の義務として位置付けられており、近年の多様化する災害の中、国民の関心も非常に高くなっている業務です。任期中は様々な災害対応を行いましたが、こうした経験は、OJT研修でしかできない貴重なものであり、私にとって今後の強みになると考えています。

派遣元では、内閣府防災で得たものを惜しみなく還元していきたいと思います。

氏 名：柚上 悟志

派遣元：(一社)日本建設業連合会

派遣期間：令和2年4月～令和4年3月

所 属：被災者生活再建担当

在任中は、大規模な災害で被災された方の生命や生活を守り、安心して再建に至るまでを支援する災害救助法の業務に従事しました。私の業務が少しでも、心身共に疲弊された被災者の再建への希望となったのであれば、これ以上嬉しいことはありません。

発災後、内閣府を先頭として各担当・各省庁一致団結して迅速に災害対応に取り組む様を、一員として経験でき、国の皆様の素晴らしい行動力・対応力と、一人一人の使命感の大きさに非常に感動しました。

2年間の研修では、実務はもとより、一致団結すること、そして、自らの業務に使命感を持って取り組むことの大切さを改めて学びました。出向元でも、この気持ちを忘れることなく業務に邁進していく所存です。そして、ここで得た多くの方とのつながりを大切にしていきます。

氏 名：川島 拓

派遣元：千葉県

派遣期間：令和3年4月～令和4年3月

所 属：復旧・復興担当

復旧・復興担当として、激甚災害指定に関する業務や復旧復興施策の推進・調査等を行いました。政令制定に関する業務や大臣の防災関連施設視察への同行、政務レク同席など、他では得難い貴重な経験をさせていただきました。

激甚災害の政令指定業務を通して、防災業務のみならず様々な分野で活用できる法に基づく制度運用の基本を学ぶことができたと感じております。また、国内外の防災分野の権威ある先生方から、復旧復興施策に関する貴重な話を伺い、知見を深めることができました。

派遣元の千葉県では、令和4年度組織改正にて、危機管理体制の強化を行う予定です。内閣府防災で得た経験と知識を活かし、千葉県の防災行政に貢献してまいりたいと思います。